

2025年3月21日（金）

老球の細道859号

最近の話題あれこれ

会津バスケットボール協会 室井 富仁

最近あるテレビで小学生の男子に尋ねたアンケート結果が放映されていた。1つは「なりたい職業ベスト5」である。それによると1位会社員、2位ユーチューバー、3位野球選手、4位サッカー選手、そして5位はゲームクリエイターだそうである。定番であった「学校の先生」、「警察官」、残念ながら「バスケットボール選手」はランキング外であった。「ユーチューバー」や「ゲームクリエイター」などは今の世相を表しているようだが、最近になって「野球選手」と「サッカー選手」の順番がチェンジされたそうである。

もう一つの質問「憧れは誰ですか？」では、1位大谷翔平選手、2位お父さん、3位お母さんであった。残念ながら「お爺さん」「お婆さん」は選ばれていない。「芸能人」「スポーツのコーチ」も同じである。やはり小学校にグローブを寄付した大谷翔平選手の人気は抜群で断トツ1位となったようである。昨日東京ドームで行われたメジャーリーグ開幕戦ロサンゼルス・ドジャース対シカゴ・カブスの大フィーバーぶりを見ても明らかである。同じ頃に東京代々木第一体育館で行われた天皇杯男子決勝も満員の観客であったが、大リーグの大谷選手他日本人選手の人気と比べて話題の比ではなかった。

誰が言ったか忘れてしまったが、「日本のスポーツは、昭和は野球、平成はサッカー、令和はバスケットボールの時代である」と言っていた。残念ながらまだまだそのレベルには達していないが、わがバスケットボールも負けてはいられない。

Bリーグの観客動員数も毎年着実に増加し、B1の人気チームになると常時5、000人以上は優に入るようになった。B2の福島ボンズでさえ、かつて会津の「猪苗代カメリーナ」でゲームをした時は800人位しか入らない時もあったが、今シーズンは平均して2、000人以上は入っている。

Bリーグは世界のトップリーグにおいて、NBAに次ぐ世界第2位のリーグにしようと頑張っている。26～27シーズンからスタートする「Bプレミアリーグ」で流れは一挙に変わるだろう。外国人枠の廃止、新人選手のドラフト制、チーム選手給料サラリーキャップ制などの新制度が導入され、世界中から有望な選手が日本に集結するのではないだろうか。

また、現在Bリーグには、アジア選手が欧米などの外国選手とは別枠で出場できる「アジア特別枠」がある。現在はフィリピン、中国などから選手が来ているが、今後、台湾、モンゴル、レバノンからも選手獲得の動きがあるらしい。それによって、アジア地区での放映権販売、企業協賛、インバウンド需要の高まりが予想される。

先の東京五輪、パリ五輪、そしてアジアでのワールドカップで大活躍を見せた日本代表であったが、その活躍でわが会津地区のバスケット競技人口が増えたという話は聞こえてこない。むしろ、ミニ、中学、高校になるにつれて、競技人口、チーム数の減少が止まらない。地方草の根レベルの競技人口増加がなければ真のバスケットボール隆盛はない。